

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人中央共同募金会

www.akaihane.or.jp

目次

| | |
|------------------------------------------------------|----|
| I 共同募金会を取り巻く情勢 | 2 |
| II 主な事業の実施状況 | 4 |
| 1. 共同募金会としての募金や助成機能の強化 | |
| 2. 共同募金運動の活性化 | |
| 3. 新型コロナウイルスの感染拡大の影響に苦しむ人々を支援するための寄付募集と助成の実施 | |
| 4. 多様な寄付方法の提案 | |
| 5. 社会課題を解決するための先駆的な活動を支援する助成プログラム | |
| 6. 災害への対応力強化 | |
| 7. 都道府県共同募金会の支援及び連絡調整 | |
| 8. 法人運営 | |
| III 事業内容..... | 9 |
| 事業報告の附属明細書 | 24 |
| 参考資料 | 25 |
| 参考資料1 共同募金預り金収入の推移（単位：円） | |
| 参考資料2 災害義援金募集の実施状況（令和5年3月31日現在） | |
| 参考資料3 災害ボランティア・NPO活動サポート募金 概要 | |
| 参考資料4 赤い羽根福祉基金 助成事業一覧 | |
| 参考資料5 赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン 助成概要 | |

I 共同募金会を取り巻く情勢

1. 長引く新型コロナウイルスの影響や少子高齢化等により顕在化した様々な社会課題

令和4年度も、長引く新型コロナウイルスの影響や少子高齢化・人口減少などを要因として、孤独・孤立の状況に置かれている人々、生活に困窮する人々への支援が、強く求められる1年であった。警察庁が発表した令和4年の自殺者数は21,881人と前年に比べ874人(4.2%)増加しており、内閣府が令和4年12月に実施した「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」では、孤独感が「しばしばある・常にある」「時々ある」と回答した人が20.7%と前年度比1.7%増という結果となっている。また、全国の社会福祉協議会が令和4年9月まで実施した「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急小口資金等特例貸付」は382.3万件、1兆4,431億円という未曾有の貸付実績となった。

なかでも、子ども・若者をめぐる生活課題、たとえば、経済的な困窮、いじめ、不登校、ひきこもり、障害、虐待、ヤングケアラーなどの課題が深刻化しており、政府においても、令和5年4月に子ども家庭庁を設置し、様々な困難を抱える子どもや家庭に対する年齢や制度の壁を克服した切れ目ない包括的支援を行うこととしている。合わせて、ボランティア・NPOなどによる子どもや子育て家庭を孤立させない民間の取り組みを、より一層広げていくことが求められている。

2. 感染拡大終了後を見据えた共同募金会の役割

こうした状況下のなかで、令和4年度は、ワクチン接種や感染対策が普及してきたことから、様々な活動を、以前のような対面・参集方式に徐々に戻していく動きが広がってきた時期でもあった。住民の福祉活動においても、感染防止の観点から一時期は開催が難しくなっていたいきいきサロンや子ども食堂などの、人と人との実際に出会い「つながる」活動が再開し始めている。しかし、活動の担い手不足から、再開したくても難しいという悩みを抱える地域もでてきている。

このような感染拡大終了後（ポスト・コロナ）の状況を見据え、引き続き人と人とのつながりを大切にした支援活動を応援し続けることが、我々共同募金会の果たすべき大きな役割となっている。

76回目となった令和4年度の共同募金運動では、3年ぶりに中央共募においても共同募金キックオフイベントを参集形式で開催することができた。全国でも街頭募金やイベントなどを再開するところも増え、募金活動も感染拡大以前の状況に戻りつつあるが、共同募金に対する寄付は約168億円で、対前年比0.9%減となった。

一方で中央共募が行った「赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン」へは約8億円の寄付が寄せられ、赤い羽根福祉基金においても困難を抱える子どもへの支援をテーマとした冠基金が新たに2つ設立されることとなった。他の募金団体の寄付額もここ数年上昇傾向にあること、また令和5年1月に「法人等による寄附の不当な勧誘の防止等に関する法律（以下、不当寄附勧誘防止法と表記）が施行され

たこともふまえ、より多くの人々に共同募金運動への参画が得られるよう、共同募金の目指すところをわかりやすく社会に示すことが重要である。また都道府県共募の運営・経営体制や法制度改正の可能性について検討も必要となっている。

3. 頻発する災害への対応力の強化と被災地支援の充実

令和4年度も残念ながら複数の自然災害が発生した。特に8月3日からの大雨災害は、山形、新潟、福井、石川、青森の5県35市町村に災害救助法が適用され、死者2名、住家被害は7,000棟を超える規模となった。9月14日に発生した台風14号は、死者5名を含む159名の人的被害、約2,400戸の住家被害をもたらした。山口、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島9県286市町村に災害救助法が適用される事態となった。さらに9月23日に発生した台風15号では、静岡県23市町に災害救助法が適用され、死者3名、12,995戸もの住家被害をもたらした。

被災地では、社会福祉協議会が中心となって災害ボランティアセンターが設置され(6月能登地方地震1カ所、7月14日からの大雨3カ所、8月3日からの大雨22カ所、台風14・15号7カ所)、ボランティア・NPOによる片付け、家屋復旧、避難所支援などの取り組みが展開された。こうした被災者支援活動や、災害に備えた防災・減災に向けた取り組みを支える役割を共同募金会として果たしていく1年でもあった。

Ⅱ 主な事業の実施状況

1. 共同募金会としての募金や助成機能の強化

社会を巡る諸状況を踏まえ、共同募金会がより多様な社会の期待に応えられるものとなるよう、「企画・推進委員会」においてその役割・機能について協議を行った。特に、令和2年度以降、全国の都道府県共募が、新型コロナウイルス拡大に係る緊急支援活動助成に取り組んだ成果をふまえ、「地域福祉の広がり」と共同募金」「即応性ある助成」の観点から、共同募金会が取り組む上での課題や法令改正の可能性も視野に入れて、検討を行った。

また、同委員会内に設置した「ワーキング会議」において、都道府県共募の実践をヒアリングし、その工夫された取り組みを70年答申推進事項に沿って整理し、「都道府県共同募金会職員のための知恵袋(第1版)」として取りまとめ公表した。

2. 共同募金運動の活性化

(1) 新型コロナウイルスの影響下で顕在化した課題に対する取り組み

前年度に引き続き、令和4年度も全国共通助成テーマ「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」を制定し、新型コロナウイルスの影響が長引くなかにおいてもつながることをあきらめず、孤独・孤立の問題に対して取り組む活動を、全国的に共同募金が支援することを示した。また、「令和4年度赤い羽根共同募金運動の実施について～共同募金の役割発揮に向けて～」が全社協より都道府県社協へ発出されるよう調整を行い、共同募金会が令和2年度以降培ってきた柔軟な助成事業の運用を、市区町村社協とともに行っていくことを呼び掛けた。

地域歳末たすけあいについては、年末年始に限らず、当該年度および翌年度の「緊急支援のための」事業に対して積極的に助成を行い、外国にルーツがある人々も含む、福祉ニーズを持つ方への支援を主眼として運動を行った。さらに、NHK 歳末たすけあいにおいては、ウクライナ等からの避難者を含む、日本国内で支援を必要とする外国にルーツがある人々への支援についても考慮することを実施要綱に盛り込み運動を展開した。

(2) 都道府県共募との連携強化

「都道府県共同募金会職員研修(4月、11月)」、「第11回赤い羽根全国ミーティング(東京)」を、ハイブリッド方式で開催した。また、新たにオンラインを通じた都道府県共募職員同士の学び合いや情報交換の場づくりを行った。具体的には、災害時支援基礎研修、総務・会計担当者研修、遺贈寄付をテーマとした情報交換会などをオンラインで開催するとともに、都道府県共募職員が日常的に情報交換できるオンラインチャットツール、都道府県共募の業務に役立つ通知や資料等を共有するクラウド上のフォルダを新たに設置した。

一方で、新型コロナウイルス感染拡大以降、都道府県共募職員の対面での研修の機会が極端に不足していたことを重く見て、この間各都道府県共募に新規採用された職員を中心とした交流と研修の機会として、対面方式で「都道府県共同募金会新任職員研修会」を令和5年1月に開催した。

不当寄付勧誘防止法が令和5年1月に施行された際には、関係省庁へ確認のうえ、共同募金会関係情報誌「赤い羽根」を通じて、共同募金関係者が対応すべきことについて情報提供を行った。

(3) 広報戦略の展開

共同募金運動および「全国キャンペーン」がともに共同募金会が実施する「赤い羽根」の一環としての運動であることについて理解を促進するため、共同募金運動のロゴマーク及びメインテーマ「じぶんの町を良くするしくみ。」を活用しながら、「困ったときはおたがいさま、支え合う人たちがいる」をポスターコピーとして広報活動を展開した。

3. 新型コロナウイルスの感染拡大の影響に苦しむ人々を支援するための寄付募集と助成の実施

長引く新型コロナウイルスの影響により、経済的に困窮する人々が増え、自殺者の増加が大きな問題となる中で「いのちをつなぐ」支援活動が全国的に必要とされたことをふまえ、令和2年度以降、本会では「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン『いのちをつなぐ支援活動を応援！～支える人を支えよう～』」による寄付受入れ及び助成に取り組んできた。

令和4年度は、社会状況の変化も踏まえ、「赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン ～それでもつながり続ける地域・社会をめざして～」にプログラムを改め、引き続き寄付金の受入れを行った。助成プログラムについては、「居場所を失った人」、「外国ルーツの人」への支援プログラムを継続実施したほか、新たな課題として顕在化してきた「医療的ケア児と家族」や、ウクライナ戦争により国内に避難してきた人々の支援、地域での孤立に気づき見守る人材育成プログラムなどを新設し、助成を行った。

「赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン ～それでもつながり続ける地域・社会をめざして～」

●受け入れた寄付金額 809,999,793 円

●助成決定件数・金額 計175件 2億9647万円

[実施した助成プログラム]

- ・第5回 居場所を失った人への緊急活動応援助成
- ・第6回 居場所を失った人への緊急活動応援助成
- ・第3回 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成
- ・【新規】ウクライナから避難している人を支援する追加緊急助成
- ・【新規】第1回 重症児とその家族に対する支援活動応援助成
- ・【新規】第1回 地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材（つながりワーカー）養成および実践活動助成
- ・第2回 地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材（つながりワーカー）養成および実践活動助成

4. 多様な寄付方法の提案

(1) インターネット等新たな募金手法の環境整備と活用促進

クレジットカードやコンビニ支払い、キャリア決済等を活用したネット募金システムが共同募金においても広く活用されるよう、その広報の手法についてとりまとめ、情報誌「赤い羽根」やその他の機会を通じて共同募金関係者に周知を図った。

(2) 【新規】「戸別募金ボランティア向けパンフレット」の作成

戸別募金ボランティア向けに、共同募金のしくみや使いみちなどを漫画でわかりやすく紹介したパンフレットを新たに作成した。

(3) 企業等からの寄付や遺贈寄付等を増やすための広報強化

企業等に対して共同募金、福祉基金、ボラサポなど、幅広い助成プログラムの展開を活かした寄付募集及び広報・周知を行うとともに、企業等からの個別の相談に対して、各企業の社会貢献意欲と助成に係る資金ニーズとの丁寧なマッチングを行うなどの相談対応を実施した。

特に、従業員の寄付プログラム導入を検討する企業に対しては、ネット募金システムを活かした従業員等による職域募金専用の仕組みである「ウェブ募金箱」の活用を呼びかけ、新たに9社（累計42社）の企業・団体の参加を得た。

寄付の協力をいただいた企業等に対しては、お礼とフィードバックを行うため、寄付に基づく助成の結果や効果について、随時助成先団体の活動をホームページやSNSで紹介し、インタビュー動画を掲載するとともに、オンラインを活用したウェブ報告会を開催するなど、助成成果の広報に努めた。

その一環として、令和5年2月2日に「社会貢献セミナー 2023 ～「持続可能な社会」の実現に向けた企業とNPOの協創を促進するために～」をオンラインで開催し、企業の社会貢献担当者や中間支援団体、NPO等活動団体など約160名が参加した。

5. 社会課題を解決するための先駆的な活動を支援する助成プログラム

(1) 赤い羽根福祉基金の運営及び助成の実施

既存の制度やサービスでは対応できない多様な社会課題を解決する先駆的、モデル的事業で、今後全国的な広がりが期待できる事業を支援するため、赤い羽根福祉基金の運営を行った。

11月～1月に実施した令和5年度助成公募では、一般助成プログラムとともに、令和4年度に新設した「重点助成（生きづらさを抱える若者の未来創出活動応援助成）」についても引き続き実施した。両プログラムに合わせて167件の応募があり、審査の結果、新規に14件の助成を決定した。（令和5年度 新規採択 一般 10件 7,078万円、重点 4件 1,897万円）

継続助成についても審査委員会における審査を行い、12件の継続助成を決定した。（令和5年度 継続助成 12件 6,702万円）

また、寄付者の意思に沿った助成プログラムとして、以下の5件の冠基金による助成を行った。(冠基金助成決定実績 計329件1億1,518万円)

赤い羽根福祉基金 冠助成プログラム

- ① 盛和塾「社会人定着応援プログラム」
- ② アサヒ飲料「全国のこども食堂を応援プログラム」
- ③ 福祉保険サービス「救護施設等セーフティネット機能プログラム」
- ④ 【新規】清水育英会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成プログラム」
- ⑤ 【新規】コープみらい「子ども・子育て支援助成 ～生活に困難がある子どもやその家族への支援活動を応援！」

(2) 各種民間資金による助成の実施

休眠預金による助成事業「当事者会のピアサポート支援事業」及び「災害時要支援者緊急支援事業」、公益信託高橋保蔵記念福祉振興基金、ソフトバンク株式会社との協働による「チャリティスマイル」(児童養護施設等を退所した子どもたちの支援活動)について、それぞれ助成を実施した。

また、三菱電機株式会社からの寄付金を原資に、三菱電機×中央共同募金会「三菱電機創立100周年記念助成」を新たに実施した。

6. 災害への対応力強化

(1) 災害等準備金の運用

令和4年7月豪雨、8月豪雨、台風14号、台風15号で被災した青森、宮城、秋田、山形、新潟、石川、福井、静岡の計8県共同募金会(計28か所)が、災害等準備金により災害ボランティアセンターの設置運営に係る助成を行った(助成総額約4,840万円)。その際、他県からの拠出の必要性について調整を行ったが、助成は全て自県の積立より実施された。

また、災害等準備金の運用について、公費との役割分担の考え方を深めながら、都道府県共募において災害等準備金の即応的な拠出等適切な支援及び対応に資するため、「都道府県共同募金会 災害時支援基礎研修」を7月にオンライン開催した(再掲)。

(2) 災害発生時における災害ボランティア・NPO活動への支援

「令和4年3月福島県沖地震」、「令和4年8月豪雨災害」、「令和4年台風15号災害」について、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(以下、ボラサポ)による寄付募集及び助成を行った。(助成決定実績 計48件1,913万円)

(3) 災害に備えたボランティア活動資機材ネットワークへの支援

災害ボランティアセンター等で活用する資機材を発災時に速やかに被災地に送ることができるよう、令和4年度にボラサポの平時助成として「赤い羽根 災害時のボランティア活動資機材ネットワーク助成」を新設し、助成を行った。全国のより広い地域に同ネットワ

ークを構築するため、令和4年度中に2回目の助成公募を行い、新たに5団体への助成を決定した。(助成決定実績 令和4年度事業 6件2,750万円、令和5年度事業 5件2,498万円)

また、同ネットワークにおける資機材の備蓄状況を集約するためのデータベース開発に取り組んだ。

7. 都道府県共同募金会の支援及び連絡調整

(1) 都道府県共募の連絡・調整を図るための会議等の開催

「都道府県共同募金会 常務理事・事務局長会議」および「共同募金会ブロック幹事連絡会」を参集形式またはオンラインで開催し、これからの共同募金会の役割機能、共同募金運動の実施方針、全国的な募金キャンペーンの実施等について協議を行った。

(2) 運動資材及び広報資材の製作、頒布

共同募金運動に使用する募金箱等の運動資材、ポスターやパンフレット等の広報資材を作成し共同募金会へ配布した。令和3年度に導入したクラウド型の「共同募金運動資材発注システム」についてより活用しやすいように改修し、運動資材受発注業務の効率化・安定化を推進した。

8. 法人運営

定款及び諸規定に基づき、法人の適正な運営を図るため、理事会及び評議員会を開催した。また、理事の職務の執行等を監査するため、事業執行状況及び会計について、監事及び会計監査人による監査を行った。

Ⅲ 事業内容

1. 共同募金会としての募金や助成機能の強化

| 項目 | 事業内容 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 社会の新たな期待に応える共同募金会の役割・機能の検討</p> <p>「企画・推進委員会」を開催し、今後の共同募金会の役割・機能について、法令改正の可能性も視野に検討を行った。</p> <p>また、同委員会内に設置した「ワーキング会議」において都道府県共同募金会に対するヒアリングを行い、その活動実践を70年答申の取組内容に沿って整理した「都道府県共同募金会職員のための知恵袋(第1版)」を作成・配布した。</p> | <p>1) 企画・推進委員会の開催</p> <p>懇談会：5月11日</p> <p>第2回：10月31日</p> <p>第3回：1月31日</p> <p>第4回：3月22日</p> <p>2) ワーキング会議の開催</p> <p>第5回：8月29日</p> <p>第6回：10月5日</p> <p>3) 「都道府県共同募金会職員のための知恵袋(第1版)」作成・配布</p> |
| <p>(2) 共同募金会職員の人材養成に関する検討</p> <p>「共同募金会職員の人材養成に関する検討会」を開催し、共同募金会職員が相談し合える「場づくり」、および人材養成プログラムに関する「テキスト作成」の検討を行った。</p> | <p>1) 共同募金会職員の人材養成に関する検討会の開催</p> <p>第7回：4月5日</p> <p>場づくりチーム検討：4月28日</p> <p>テキスト作成チーム検討：5月11日</p> |

2. 共同募金運動の活性化

| 項目 | 事業内容 |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 共同募金運動の推進</p> <p>① 全国共通助成テーマの推進</p> | <p>1) 「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない」を引き続き全国共通助成テーマとして設定し、生きづらさを抱えた人々に対する、共同募金を通じた支援を呼びかけた。</p> |
| <p>② 共同募金の運動期間告示、および寄付税制優遇告示の申請</p> | <p>1) 厚生労働省に対し共同募金運動期間の告示申請を行った(厚生労働省告示第285号)。</p> <p>2) 財務省および総務省に対し、寄付税制優遇告示の申請を行った(財務省告示第247号、</p> |

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>総務省告示第 355 号)</p> <p>※期間はいずれも令和 4 年 10 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日</p> |
| <p>③共同募金運動に関する各都道府県・政令市社会福祉協議会に対する協力依頼</p> <p>全社協地域福祉部と協議し、全国の社協に向けた共同募金運動への協力依頼を行った。</p> | <p>「令和 4 年度赤い羽根共同募金運動の実施について～共同募金運動の役割発揮に向けて～」通知の全社協から発出調整と、都道府県共募への周知</p> |
| <p>④地域歳末たすけあいの実施</p> <p>社会的孤立の解消や生活困窮者への支援等、今日的な課題解決に向けた運動展開を図るため、全国社会福祉協議会、全国民生委員児童委員連合会との共催で、歳末たすけあい運動を実施した。</p> | <p>1) 「令和 4 年度地域歳末たすけあい運動実施要項」の制定</p> <p>実施期間 12 月 1 日～12 月 31 日</p> |
| <p>⑤第 72 回NHK歳末たすけあいの実施</p> <p>社会的孤立の状態ある人や、新型コロナウイルス拡大による影響を受け居場所を失った人々、ウクライナ等の避難者を含む外国にルーツがある人々、災害により被災した人々への支援を重点としたテーマを設定し、NHK、NHK厚生文化事業団との共催により実施した。</p> <p>具体的な使いみちなどを記載した資料を活用し、寄付者向けダイレクトメールの発送や、インターネット募金による受付を行い、寄付の拡大を図った。</p> | <p>1) 令和 4 年度 (第 72 回) 「NHK歳末たすけあい」実施要綱の制定</p> <p>実施期間 12 月 1 日～12 月 25 日</p> <p>2) 寄付金の受け入れ</p> <p>令和 4 年度実績 (全国)</p> <p>34,527 件 537,262,609 円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内、中央共募取扱分 25,893 件 394,266,152 円 <p>3) 継続的な寄付者向けのダイレクトメールの発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DM送付件数 25,708 件 ・呼応率 63.53% <p>4) インターネットを通じた寄付金の受け入れ</p> <p>550 件 9,210,854 円</p> <p>※再掲：上記 2) の中央共募取扱分に含む</p> |
| <p>⑥テーマ型募金の推進</p> <p>都道府県共募が実施するテーマ型募金について、本会のホームページで集約して紹介し、テーマごとに選択して寄付できるよう支援を行った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間 1月1日～3月31日 ・取り組み県数 35県、237事業 ・寄付額 139,891,307 円 |
| <p>(2) 共同募金運動の全国的な広報の実施</p> | |
| <p>①広報素材の作成と展開</p> <p>共同募金運動のロゴマーク及びメインテーマ「じぶんの町を良くするしくみ。」を活用しながら、「困ったときはおたがいさま、支え</p> | <p>「赤羽根家」をメインビジュアルとした広報素材を作成した。</p> <p>1) 広報ポスターの作成し、都道府県共募とともに全国各地への掲示を依頼した。</p> |

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>合う人たちがいる」をポスターコピーとして扱った各種広報素材、資材等を作成した。</p> | <p>2) TVCM (動画) の作成し、都道府県共募と共に、大型ビジョン事業者、民放各社等へ放映協力を依頼した。</p> |
| <p>②ウェブを用いた広報の促進 ホームページや SNS を活用した広報を行い、企業等の協力による募金事例や助成先の活動事例などを紹介した。</p> | <p>1) Twitter (赤い羽根の中央共同募金会 @akaihane_chuo) 更新 83 回 2) Facebook (赤い羽根共同募金 https://www.facebook.com/akaihane/) 更新 98 回</p> |
| <p>③運動開始を周知するイベントの実施 3年ぶりに、ANA との共催による「赤い羽根 空の第一便」中央伝達式、および「赤い羽根共同募金 キックオフイベント」を、参集方式で実施した。</p> | <p>1) 「第 61 回 赤い羽根 空の第一便」中央伝達式 9月30日(金)、会場：厚生労働大臣室 2) 赤い羽根共同募金 キックオフイベント 10月1日(土)、会場：東京・浅草寺</p> |
| <p>(3) 共同募金運動を支える統計の適切な実施</p> | <p>1) 共同募金への寄付額および助成実績を調査し、告示申請等の資料として活用するとともに、ホームページや年次報告書を通じて報告した。 2) 共同募金への寄付および助成状況集約システム「赤い羽根データベースはねっと」の運営を行った。</p> |
| <p>(4) 都道府県共募等との情報共有、意見交換の場づくり</p> | |
| <p>①「第 11 回赤い羽根全国ミーティング」の実施 「ポストコロナ社会の地域共生に共同募金はいかに役割を果たせるか」をテーマとして開催した。</p> | <p>○第 11 回赤い羽根全国ミーティング 日程：7月5日(火)～6日(水) 会場：新霞が関ビル・灘尾ホールをメイン 会場に直面+オンライン 参加者数：215 人</p> |
| <p>②都道府県共募職員研修会の実施</p> | <p>1) 第 1 回都道府県共同募金会職員研修 ・日程 4月21日(木)～22日(金) ・テーマ 令和 4 年度事業計画について 2) 第 2 回都道府県共同募金会職員研修 ・日程 11月17日(木)～18日(金) ・テーマ コミュニケーションを考えよう 3) 都道府県共同募金会新任職員研修 ・日程 1月12日(木)～13日(金)</p> |
| <p>③都道府県共募職員を対象としたテーマ別</p> | <p>1) 災害時支援基礎研修 (オンライン)</p> |

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研修・意見交換の場の実施</p> <p>共同募金会職員の資質向上のため、オンラインを活用して、テーマ別の研修や意見交換会を開催した。また、都道府県共募職員が日常的に情報交換できるチャットツールと、過去の通知や資料等を提供するクラウド上のフォルダを新たに設置した。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日 程 7月29日(金) ・主な内容 災害時の災害等準備金に関する業務について 他 2)都道府県共募 総務・会計担当者研修(オンライン) ・日 程 8月5日(金) ・主な内容 適正な法人運営 個人情報保護法の改正 3)都道府県共募 第1回オンラインサロン ・日 程 11月1日(火) ・テーマ 遺贈寄付について 4)都道府県共募職員の日常的な情報交換の場としてチャットツールを設置 5)共同募金会業務に係る過去の通知や資料等を提供するクラウド上のフォルダを設置 |
| <p>④不当寄付勧誘防止法(令和5年1月施行)への対応</p> | <p>関係省庁へ確認のうえ、共同募金会関係情報誌「赤い羽根」を通じて、共同募金関係者が対応すべきことについて情報提供を行った。</p> |
| <p>⑤全国の共同募金関係者向けの情報提供の実施</p> <p>共同募金に関わる施策や社会情勢、全国の先進的な取り組み事例の紹介等を行った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 1)情報誌「赤い羽根」の発行 <ul style="list-style-type: none"> ・年3回(8、12、3月)発行 各5,600部 ・web版の発行 年2回(12、3月) 2)共同募金会メールニュースの発行 <ul style="list-style-type: none"> ・発行数 24回 |

3. 新型コロナウイルスの感染拡大の影響に苦しむ人々を支援するための寄付募集と助成の実施

| 事業内容 | 事業の実施状況 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1)「赤い羽根 ポスト・コロナ(新型コロナウイルス)社会に向けた福祉活動応援キャンペーン～それでもつながり続ける地域・社会をめざして～」の実施</p> | <p>寄付金の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付額 809,999,793円 |
| <p>①「居場所を失った人への緊急活動応援助成」の実施</p> <p>新型コロナウイルスの影響が長期化する中で、経済状況悪化のため仕事や家を失った人たち、虐待やネグレクトなどで家にいられない子どもや若者たちなど、様々な理由から居場所を</p> | <ul style="list-style-type: none"> 1) 第5回助成 <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 24団体 ・助成決定額計 5,642万円 2) 第6回助成 <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 25団体 ・助成決定額計 6,162万円 |

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>失い、孤立する人たちに対し、相談に乗り、居場所を提供するなどの緊急支援活動を支援することを目的として助成を行った。</p> | <p>3) 審査委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回 審査委員会 8月22日(月) ・第6回 審査委員会 12月14日(水) |
| <p>②「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」の実施</p> <p>新型コロナウイルス感染下において、国内に在住し、生活に困窮する外国にルーツがある人々を支援することを目的として助成を行った。本助成は三菱財団との共同助成であり、助成財源の一部として三菱財団からの新たな寄付を受け入れた。</p> | <p>1) 第3回助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 45団体 ・助成決定額計 8,139万円 <p>2) 審査委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回 審査委員会 9月26日(月) |
| <p>③【新規】「ウクライナから避難している人を支援する追加緊急助成」の実施</p> <p>戦禍から逃れ日本に避難されたウクライナの人たちが、地域で孤立することなく、安心して生活していくための、生活や就業の支援、コミュニティ側の受け入れや交流支援を目的に、「外国ルーツがある人々への支援活動応援助成」の一環として緊急助成を行った。</p> | <p>助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 5団体 ・助成決定額計 487万円 |
| <p>④【新規】「重症児とその家族に対する支援活動応援助成」の実施</p> <p>医療的ケア児支援法により医療的ケア児の地域生活を支える新たな制度が整備される中で、医療的ケア児、難病児、重度障がい児(若者も含む)と、その家族を支援する活動を応援する目的として助成を行った。</p> | <p>1) 助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 23団体 ・助成決定額計 7,807万円 <p>2) 審査委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 審査委員会 5月9日(月) |
| <p>⑤【新規】「地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材(つながりワーカー)養成および実践活動助成」の実施</p> <p>コロナ禍における地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材を地域に増やしていくことを目的として、研修プログラムを開発し、地域のボランティア団体等における養成講座・研修及びその実践に対する助成を行った。</p> | <p>1) 第1回助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定 30団体、総額929万円 <p>2) 第2回助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定 23団体、総額481万円 <p>3) 直接助成を行う県共同募金会への助成原資の提供</p> <p>県内で直接助成公募を行う意向表明のあった10県共同募金会に対し、助成原資としてそれぞれ200万円(事務費含む)を提供した。</p> |

4. 多様な寄付方法の提案

| 事業内容 | 事業の実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----|-------|------|-------|------------|-------|-----|-----------|------|-------|------------|------|-----|-----------|----------|-----|-----------|---------|----|---------|----------|-----|-----------|----|--------|------------|
| (1) 既存の枠組みにとらわれないプログラム提案 | 企業等の社会貢献活動に関する意向を反映させながら、寄付を課題解決に結び付けていくプログラム提案を行った。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) インターネット等新たな募金手法の環境整備と活用促進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>① ネット募金システムの周知</p> <p>ネット募金システムが共同募金においても広く活用されるよう、その広報の手法についてとりまとめ、情報誌「赤い羽根」やその他の機会を通じて共同募金関係者に周知を図った。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>② ネット募金システムを通じた寄付金の受け入れ</p> | <p>インターネット決済等による寄付金の受け入れ（クレジットカード、コンビニ、ペイジー、キャリア決済、口座振替）</p> <table border="1" data-bbox="874 969 1465 1559"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>件数</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同募金</td> <td>6,567</td> <td>57,851,024</td> </tr> <tr> <td>NHK歳末</td> <td>550</td> <td>9,210,854</td> </tr> <tr> <td>ボラサポ</td> <td>2,428</td> <td>13,469,111</td> </tr> <tr> <td>福祉基金</td> <td>801</td> <td>4,156,419</td> </tr> <tr> <td>盛和塾プログラム</td> <td>351</td> <td>1,741,500</td> </tr> <tr> <td>じしんほけん絆</td> <td>56</td> <td>250,493</td> </tr> <tr> <td>全国キャンペーン</td> <td>508</td> <td>6,055,475</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11,261</td> <td>92,734,876</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考) 最近の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R元年度 5,347件 58,189,334円 ・ R2年度 12,607件 138,863,562円 ・ R3年度 10,530件 105,049,696円 | 内訳 | 件数 | 金額(円) | 共同募金 | 6,567 | 57,851,024 | NHK歳末 | 550 | 9,210,854 | ボラサポ | 2,428 | 13,469,111 | 福祉基金 | 801 | 4,156,419 | 盛和塾プログラム | 351 | 1,741,500 | じしんほけん絆 | 56 | 250,493 | 全国キャンペーン | 508 | 6,055,475 | 合計 | 11,261 | 92,734,876 |
| 内訳 | 件数 | 金額(円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 共同募金 | 6,567 | 57,851,024 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NHK歳末 | 550 | 9,210,854 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ボラサポ | 2,428 | 13,469,111 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福祉基金 | 801 | 4,156,419 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 盛和塾プログラム | 351 | 1,741,500 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| じしんほけん絆 | 56 | 250,493 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全国キャンペーン | 508 | 6,055,475 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 11,261 | 92,734,876 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>③ 従業員向け「ウェブ募金箱」の普及</p> <p>ネット寄付のシステムを活用した、従業員等による職域募金のための「ウェブ募金箱」の普及・啓発を行い、企業における実施事例の増加を図った。</p> | <p>ウェブ募金箱新規実施企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度9社、11プログラム (累計42社、73プログラム) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3) 戸別募金に係る理解促進 | 【新規】戸別募金ボランティア向けに、共同 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 募金のしくみや使いみちなどを漫画でわかりやすく紹介したパンフレットを新たに作成した。 |
| (4) 社会貢献セミナー2023 の開催 企業の社会貢献活動の事例やNPO等への助成事業例を共有しながら、社会課題の解決と社会貢献活動のあり方、持続可能な社会の実現に向けた企業とNPOとの連携などについて考える機会とするため、「社会貢献セミナー2023 ～「持続可能な社会」の実現に向けた企業とNPOの協創を促進するために～」をオンラインにて開催した。 | 社会貢献セミナー2023 の開催 ・日程 2月2日(金) ・参加者 約160名 ・登壇企業、団体 パナソニックホールディングス株式会社 デロイト トーマツ グループ 一般社団法人日本経済団体連合会 株式会社NTTデータ 株式会社電通 日本イーライリリー株式会社 NPO法人みかんぐみ NPO法人ダイバーシティ工房 |
| (5) 遺贈による寄付の受け入れ促進 パンフレット、ホームページ等を用いて共同募金会の遺贈受入に係る情報提供を行った。あわせて、遺贈や相続財産の寄付に係る相談が多く寄せられる機関や専門職に対して情報提供を強化することで相談や寄託先としての共同募金会の認知度の向上を図った。 また、各紙誌の遺贈特集にて、共同募金会への遺贈を呼びかける広告の掲出を行った。 | 1) 遺贈・相続寄付の啓発パンフレット「ご遺贈・相続寄付に関するご案内」の改訂と活用 2) 新聞、雑誌等の「遺贈・寄付特集」への広告出稿 ・2022/08/22、25「日本経済新聞」遺贈特集 ・2022/10/07 月刊「文藝春秋」11月号 遺贈・寄付特集 ・2022/10/20 週刊「文春」遺贈・寄付特集 ・2022/12/15 月刊「婦人公論」1月号 遺贈・寄付特集 3) 遺贈・相続寄付の受入の実施 ・遺贈 5件 51,745,155円 ・相続寄付 1件 5,000,000円 |

5. 社会課題を解決するための先駆的な活動を支援する助成プログラムの実施

| 事業内容 | 事業の実施状況 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 赤い羽根福祉基金の運営 福祉基金の充実強化のため、プログラム全体の企画・運営について協議する運営委員会、助成審査・決定を行うために審査委員会をそれぞれ開催し、プログラムの適正な運営を図った。 | 1) 運営委員会の開催 ・第1回運営委員会 6月13日(月) ・第2回運営委員会 11月15日(火) 2) 審査委員会の開催 ・新規助成審査委員会 3月3日(金) ・継続助成審査委員会 3月7日(火) |

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(2) 赤い羽根福祉基金による助成の実施</p> <p>令和5年度の助成事業について、全国に公募を実施し、新規団体14事業および継続12事業への助成を決定した。なお公募にあたっては、令和4年度に新設した「重点助成（生きづらさを抱える若者の未来創出活動応援助成）」を継続実施した。</p> <p>また、令和4年度助成決定団体に対し、助成の実施にあたっての支援を行った。</p> | <p>1) 令和5年度助成の公募、決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募受付期間 11月25日～1月11日 ・応募受付状況（新規一般/新規重点） 応募受付件数 129件/38件 応募受付額計 10億1,918万円 ・助成決定状況 新規一般10件、助成決定額計7,078万円 新規重点4件、助成決定額計1,897万円 継続12件、助成決定額計6,702万円 <p>2) 令和4年度の助成団体支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象団体数 新規9件 継続11件 |
| <p>(3) 福祉基金冠基金プログラムの実施</p> | |
| <p>①「盛和塾 社会人定着応援プログラム」の実施</p> <p>京セラ株式会社創業者 故 稲盛和夫氏の私塾「盛和塾」からの寄付金を原資として、児童養護施設退所児童が社会人として生活を安定していけるよう支援することを目的に、「就職活動応援助成」、「手に職つけよう応援助成」、「リスタート応援モデル助成」の3プログラムによる助成を行った。</p> | <p>1) 就職活動応援助成</p> <p>95件、助成額計 950万円</p> <p>2) 手に職つけよう応援助成</p> <p>64件、助成額計 640万円</p> <p>3) リスタート応援モデル助成</p> <p>26施設・組織、助成決定額計 2,817万円</p> |
| <p>②アサヒ飲料「全国のこども食堂を応援」プログラムの実施</p> <p>アサヒ飲料株式会社からの寄付を原資として、都道府県共同募金会と連携した個々のこども食堂の基盤整備のための運営費の助成、及び各県でのこども食堂ネットワーク化にかかる費用としての助成を行った。</p> | <p>1) こども食堂の基盤整備のための運営費助成</p> <p>100件、助成額計 598万円</p> <p>2) こども食堂ネットワーク化助成</p> <p>3件、助成額計 200万円</p> |
| <p>③福祉保険サービス「救護施設等セーフティネット機能プログラム」の実施</p> <p>株式会社福祉保険サービスからの寄付をもとに、全国の救護施設等を対象に、セーフティネット機能の強化をはかる事業に対する助成を行った。</p> | <p>救護施設等のセーフティネット機能強化助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1件、助成決定額2,406万円 (全国救護施設協議会) |
| <p>④【新規】清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」の実施</p> <p>一般財団法人清水育英会からの寄付を原</p> | <p>助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 21団体 ・助成決定額計 2,512万円 |

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>資として、経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもたち学習と生活を一体的に支援する活動への助成を行った。</p> | |
| <p>⑤【新規】コープみらい×中央共同募金会「子ども・子育て支援助成 ～生活に困難がある子どもやその家族への支援活動を応援！」の助成の実施</p> <p>コープみらいからの寄付を原資として、生活に困難がある子どもやその家族又は子育てを支援する活動への助成を行った。</p> | <p>助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 19 団体 ・助成決定額計 1,395 万円 |
| <p>(3) 民間資金による助成の実施</p> | |
| <p>①休眠預金による助成事業「当事者会のピアサポート支援事業」の実施</p> <p>「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」（休眠預金等活用法）における資金分配団体として、令和元年度に公募した助成先に対し「草の根活動支援事業・当事者会のピアサポート支援事業」による令和4年度の助成を行った。</p> | <p>助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成件数 3 件 ・助成額計 20,945,585 円 |
| <p>②「公益信託高橋保蔵記念福祉振興基金」による助成の実施</p> <p>本会が受託した基金の運営を行い、令和4年度の助成を行った。</p> | <p>助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成件数 4 団体 ・助成額計 800 万円 |
| <p>③ソフトバンク・チャリティスマイルによる助成の実施</p> <p>ソフトバンク株式会社及び同社携帯電話の加入者からの寄付を原資とする「安心して社会に巣立とう」応援助成として、社会的養護施設等を退所した子どもたちの支援に取り組む団体への助成を行った。</p> | <p>1) 寄付金の受入れ及び助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付額 5,607,378 円 <p>2) 助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 10 団体・事業所 ・助成決定額計 532 万円 |
| <p>④【新規】三菱電機×中央共同募金会「三菱電機創立100周年記念助成」の実施</p> <p>2021年2月に創立100周年を迎えた三菱電機株式会社からの寄付金を原資に、助成を行った。</p> | <p>助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成件数 4 団体 ・助成決定額計 1,628 万円 |

6. 災害への対応力強化

| 事業内容 | 事業の実施状況 |
|-----------------|-------------------------|
| (1) 災害等準備金制度の運用 | 1) 令和4年7月豪雨、8月豪雨、台風14号、 |

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>台風 15 号で被災した青森、宮城、秋田、山形、新潟、石川、福井、静岡の計 8 県共同募金会（計 28 か所）が、災害等準備金により災害ボランティアセンターの設置運営に係る助成を行った。その際、他県からの拠出の必要性について調整を行ったが、助成は全て自県の積立より実施された。</p> <p>2) 「都道府県共同募金会 災害時支援基礎研修」の開催（再掲）</p> <p>・日 程 7 月 29 日（金）</p> |
| <p>(2) 災害ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ）の運用</p> | |
| <p>① 災害ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ）の運営</p> <p>災害発生に備えて平時より支援活動に対する寄付を呼びかけると共に、令和 4 年 3 月に発生した福島沖地震、令和 4 年度に発生した令和 4 年 8 月豪雨災害、令和 4 年台風 15 号災害を特定した寄付募集を実施した。合わせて、前述の災害の被災地において支援活動を展開する団体への助成を実施した。</p> | <p>1) 寄付の受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度寄付額合計 109,096,331 円 <p>2) ボラサポ・令和 4 年 3 月福島県沖地震</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 9 件 ・助成決定額計 444 万円 <p>3) ボラサポ・令和 4 年 8 月豪雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 24 件 ・助成決定額計 891 万円 <p>4) ボラサポ・令和 4 年台風 15 号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 15 件 ・助成決定額計 578 万円 |
| <p>② READYFOR×ボラサポ災害支援基金「災害支援を専門とする非営利団体に対する緊急助成プログラム」の運営</p> <p>ボラサポにおける支援プログラムの 1 つとして、READYFOR 株式会社との連携により READYFOR×ボラサポ 災害支援基金「災害支援を専門とする非営利団体による活動を対象とした緊急助成プログラム」の運営を行なった。</p> | <p>寄付募集及び助成の実績なし</p> |
| <p>③ ボラサポ平時助成「赤い羽根 災害時のボランティア活動資機材ネットワーク助成」の実施</p> <p>各都道府県・指定都市圏域における災害時のボランティア活動にかかる資機材等の整備と、それを活用するためのネットワーク構築を行うため、ボラサポの平時助成として</p> | <p>助成の実施</p> <p>1) 令和 4 年度事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 6 件 ・助成決定額計 2,750 万円 <p>2) 令和 5 年度事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成決定件数 5 件 ・助成決定額計 2,498 万円 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|------|------|------|--------|----|--------|----|------|-----|----------|------|
| <p>「赤い羽根 災害時のボランティア活動資機材ネットワーク助成」の助成を行った。</p> <p>また、同ネットワークにおける資機材の備蓄状況を集約するためのデータベース開発に取り組んだ。</p> | <p>3) 資機材の備蓄状況を集約するデータベースの開発</p> | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>④「ボラサポ2」および「ボラサポ九州」による東日本大震災および熊本地震被災地における住民支え合い活動への助成の実施</p> | <p>1) ボラサポ2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県、宮城県、福島県共同募金会を通じて、東日本大震災被災地における住民支え合い活動に対する助成を実施（3県送金額計：55,941,937円） <p>2) ボラサポ・九州</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本県共同募金会を通じて、熊本地震被災地における住民支え合い活動に対する助成を実施（送金額：27,490,000円） | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(3) 企業等との協働による被災地支援プログラムの運用</p> | <p>「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成団体数 5件 ・助成決定額計 2,440,000円 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(4) 休眠預金による助成の実施</p> <p>「災害時要支援者緊急支援事業」として、令和4年8月豪雨災害の被災地における支援活動への助成を行った。</p> | <p>助成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1件、助成額2,732,600円 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(5) 「東日本大震災 震災遺児支援事業」の実施</p> <p>東日本大震災で保護者を亡くした遺児に対し、修学資金（1人 282,000円）、中学校入学祝金（1人 100,000円）、高等学校卒業祝金（1人あたり 100,000円）、の給付を行った。</p> | <p>修学資金の給付の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学資金 533人 <table border="1" data-bbox="874 1308 1404 1653"> <tr> <td>小学校</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>103人</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>140人</td> </tr> <tr> <td>高等専門学校</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>専修学校</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td>大学（短大含む）</td> <td>198人</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校入学祝金 24人 ・高等学校卒業祝金 74人 | 小学校 | 38人 | 中学校 | 103人 | 高等学校 | 140人 | 高等専門学校 | 5人 | 特別支援学校 | 8人 | 専修学校 | 41人 | 大学（短大含む） | 198人 |
| 小学校 | 38人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 中学校 | 103人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 高等学校 | 140人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 高等専門学校 | 5人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別支援学校 | 8人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 専修学校 | 41人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 大学（短大含む） | 198人 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(6) 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）の事務局運営</p> <p>日本経団連会員企業を中心とした企業寄付により、令和4年7月豪雨災害、令和4年8月豪雨災害、令和4年台風15号災害において、運営支援者の派遣等被災地の災害ボランティアセンターの支援を行った。</p> | <p>1) 災害ボランティアセンターに対する運営支援者派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年7月豪雨 1名 10日 ・令和4年8月豪雨 15名 延べ202日 ・令和4年台風15号 19名 延べ199日 <p>2) うるうるパック事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各被災地の社会福祉協議会に計1,415個の | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>運営支援者のフォローアップ及び新規開拓のための研修を開催した。</p> <p>また、企業からの「頻発する自然災害に備え、社員ボランティアを育成したい」という意向を受け、パナソニック株式会社の社員を対象とした「企業人災害ボランティア講座」を実施した。</p> | <p>うるうるパックを送付</p> <p>3) 研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運営支援者フォローアップ研修」 6月1日（水）～2日（木） 参加者 43名（内、受講者 26名） ・「運営支援者育成研修」 1月30日（月）～2月1日（水） 参加者 48名（内、受講者 30名） <p>4) 企業人災害ボランティア講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パナソニック株式会社 参加者 163名 |
| <p>(7) 義援金の受付</p> <p>「令和4年8月3日からの大雨災害」の発生に伴い、被災県共同募金会等関係各所と協力し災害義援金の受け入れを行った。</p> | <p>義援金の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨災害 480,043円 ・令和3年大雨災害 462,823円 ・令和4年3月福島沖地震災害 9,917,008円 ・令和4年8月3日からの大雨災害 39,469,663円 |
| <p>(8) 災害時業務支援金の送金</p> <p>令和4年度に発生した災害において、義援金受付及び災害等準備金による助成を実施した県共募に対し送金した。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・8県、送金総額 571,030円 |
| <p>(9) 関係団体との情報共有</p> | <p>内閣府設置の「全国情報共有会議」に参画し、令和4年8月豪雨災害発生時におけるボランティア・NPO活動支援にかかる情報共有を行った。</p> |

7. 都道府県共同募金会の支援及び連絡調整

| 事業内容 | 事業の実施状況 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 都道府県共募の連絡・調整を図るための会議等の開催及び本会役職員の派遣</p> <p>「企画・推進委員会」において検討中のこれからの共同募金会の役割機能、共同募金運動の実施方針、全国的な募金キャンペーンの実施等について協議を行うため、都道府県共同募金会との諸会議を開催した。</p> | <p>1) 都道府県共同募金会常務理事・事務局長会議の開催</p> <p>① 第1回会議</p> <p>日程 7月14日（木）～15日（金）</p> <p>主な協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域助成プログラムの見直し、新たな社会課題への助成について ・募金増に向けた取り組み 他 |

| | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>②第2回会議（オンライン開催）</p> <p>日程 2月10日（金）</p> <p>主な協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央共募令和5年度事業計画案について ・共同募金における重点助成分野・全国共通助成テーマについて ・都道府県共募の運営・経営について 他 <p>2)共同募金会ブロック幹事連絡会の開催</p> <p>日程 12月16日（金）</p> <p>主な協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同募金における重点助成分野・全国共通助成テーマの検討について ・都道府県共募・中央共募の協議の場について ・企画・推進委員会における検討状況について 他 |
| (2)運動資材及び広報資材の製作、頒布 | <p>1)運動資材の製作及び頒布</p> <p>頒布資材数：4,077,293品</p> <p>2)クラウド型運動資材発注システムの改修</p> |
| <p>(3)表彰及び感謝の実施</p> <p>共同募金運動に功労のあった方々に対する表彰及び多年の労苦に対する感謝を実施した。</p> | <p>1)全国社会福祉大会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程 12月13日（火） ・会場 台東区立浅草公会堂 ・中央共同募金会会長表彰 受賞者 奉仕功労者 107名 優良地区・団体功労 59地区・団体 従事功労者 33名 <p>2)中央共同募金会会長感謝状、感謝楯の贈呈</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感謝状 個人108名、団体87団体 ・感謝楯 個人33名、団体60団体 <p>3)厚生労働大臣感謝状等候補者の推薦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人15名、団体14団体 |
| <p>(4)奉仕者事故見舞金の給付</p> <p>共同募金運動の奉仕活動にともなう事故で負傷された方へ見舞金を給付した。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・3件 支給総額199,000円 |
| <p>(5)民間助成事業の推薦協力</p> <p>車両競技公益資金記念財団及び中央競馬馬主社会福祉財団が実施する助成事業要望について、関係共同募金会と連携を図り推薦業務を行った。</p> | <p>1)車両競技公益資金記念財団助成事業の推薦の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所助成 13件 35,789,000円 ・ボランティア助成 50件 17,236,900円 |

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(6) 受配者指定寄附金の審査</p> <p>共同募金以外の法人寄付金及び居住地の共同募金会を通じた個人寄付金に係る税制上の優遇措置を求める寄付案件のうち、1件あたり100万円を超える案件、または2つ以上の都道府県の区域を超える案件について、関係省庁と連携を図り審査を行った。</p> | <p>1) 受配者指定寄附金の審査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定寄附金 <ul style="list-style-type: none"> <審査> 21件、2,260,232,910円 <承認> 21件、2,260,232,910円 ・ 個人住民税対象の寄附金 <ul style="list-style-type: none"> <審査> 1件、10,300,000円 <承認> 1件、10,300,000円 <p>2) 寄附金に係る税制上の寄附金控除及び損金算入制度の周知</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

8. 法人運営

| 事業内容 | 事業の実施状況 |
|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 理事会、評議員会、監事会等の開催</p> <p>① 理事会の開催</p> | <p>1) 第245回理事会</p> <p>開催日時 6月2日(木)</p> <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度 事業報告案及び会計決算案について ・ 評議員選任・解任委員(補欠)の選任並びに「評議員選任・解任委員会」の招集について ・ 評議員(補欠)選任候補者の推薦について ・ 第196回評議員会の招集について ・ 「事務局職員 育児・介護休業等規則」の改正について <p>2) 第246回理事会</p> <p>開催日時 11月10日(木)</p> <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員(補欠)選任候補者の推薦について並びに「評議員選任・解任委員会」の招集について ・ 「個人情報の取り扱いに関する規則」の改正について <p>3) 第247回理事会</p> <p>開催日時 2月22日(水)</p> <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度 事業計画案及び収支予算案について |

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・役員等賠償責任保険契約について ・第197回評議員会の招集について |
| ② 評議員会の開催 | <p>1) 第196回評議員会 開催日時 6月17日(金) 審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告案及び会計決算案について ・前常務理事の退職慰労金の支給について <p>2) 第197回評議員会 開催日時 3月3日(金) 審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業計画案及び収支予算案について |
| ③ 監事会の開催 | <p>○第1回監事会 開催日時 5月20日(金) 監査事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告及び決算に関する件 ・令和3年度事業実施に関する件 |
| ④ 評議員選任・解任委員会の開催 | <p>1) 第10回評議員選任・解任委員会 開催日時 6月10日(金) 審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議員(補欠)の選任について <p>2) 第11回評議員選任・解任委員会 開催日時 11月29日(火) 審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議員(補欠)の選任について |
| (2) 適正な経理の実施 寄付者を含む関係者の負託に応えられるよう、法人の財政状態及び収支の状況を正確かつ明瞭にし、適正な経理を実施した。 | <p>1) 内部牽制の励行 2) 会計監査人による監査の実施</p> |
| (3) ホームページの運用 共同募金の全国的な取り組み状況や、本会が実施する福祉基金、ボラサポ、全国キャンペーン等の事業について、寄付者や共同募金関係者に対し、寄付方法や使いみち、共同募金会に係る最新情報などの情報を迅速に提供できるよう、ホームページを運用した。 | <p>ホームページアクセス数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問者数 1,549,604人 ・閲覧ページ数 1,989,762ページ <p>(参考) 最近の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R元年度 1,172,728人 1,683,122ページ ・R2年度 1,482,630人 2,029,553ページ ・R3年度 1,317,183人 1,779,739ページ |
| (4) 貸室事業の実施 | 新霞が関ビルの事務所スペースの貸し出しを実施 |

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人中央共同募金会

参考資料1 共同募金預り金収入の推移（単位：円）

| 年 度 | 共同募金 | NHK歳末（中央扱い分） | |
|--------|-------------|--------------|--------|
| | | 金額 | 件数 |
| 平成22年度 | 6,576,443 | 440,992,850 | 47,627 |
| 平成23年度 | 5,383,520 | 467,007,744 | 36,180 |
| 平成24年度 | 7,873,508 | 424,389,235 | 38,115 |
| 平成25年度 | 54,698,954 | 423,335,260 | 34,720 |
| 平成26年度 | 111,049,341 | 438,558,451 | 34,995 |
| 平成27年度 | 122,099,058 | 387,724,225 | 32,742 |
| 平成28年度 | 65,044,700 | 338,064,729 | 28,575 |
| 平成29年度 | 66,513,566 | 357,908,416 | 29,781 |
| 平成30年度 | 75,160,343 | 396,758,648 | 30,389 |
| 令和元年度 | 76,808,897 | 422,791,187 | 26,646 |
| 令和2年度 | 76,808,897 | 491,790,864 | 32,941 |
| 令和3年度 | 339,370,671 | 457,405,684 | 30,549 |
| 令和4年度 | 408,552,748 | 394,266,152 | 25,893 |

参考資料2 災害義援金の受付状況（令和4年度本会受付分、令和5年3月31日現在）

| 名 称 | 受付期間 | 寄付額 |
|--------------------|--------------------------------|-------------|
| 平成30年7月豪雨災害義援金 | 平成30年7月10日（火）～ 令和4年6月30日（木） | 480,043円 |
| 令和3年大雨災害義援金 | 令和3年7月19日（月）～ 令和4年3月31日（水） | 462,823円 |
| 平成4年3月福島県沖地震災害義援金 | 令和4年3月29日（火）～ 令和4年6月30日（木） | 9,917,008円 |
| 令和4年8月3日からの大雨災害義援金 | 令和5年8月17日（水）～ 令和5年3月31日（金） | 39,469,663円 |

参考資料3 災害ボランティア・NPO活動サポート募金 概要

| 災害名称 | 寄付額 | 助成決定件数 | 助成決定額 |
|-------------------|--------------|--------|-------------|
| 令和4年3月福島県沖地震 | 3,872,427円 | 9件 | 4,440,000円 |
| 令和4年8月豪雨 | 24,996,188円 | 24件 | 8,910,000円 |
| 令和4年台風15号 | 10,279,105円 | 15件 | 5,780,000円 |
| 資機材ネットワーク助成（R4年度） | — | 6件 | 27,500,000円 |
| 資機材ネットワーク助成（R5年度） | — | 5件 | 24,980,000円 |
| ボラサポ（災害指定無し） | 69,948,611円 | | |
| 合計 | 109,096,331円 | 59件 | 71,610,000円 |

※助成決定件数、助成決定額は、令和4年度中に決定したもの。

参考資料4 赤い羽根福祉基金 令和5年度助成決定一覧

■新規採択事業（重点助成） 4件

| No. | 都道府県 | 団体名 | プロジェクト名称 | 令和5年度 助成決定額 (万円) |
|-----|------|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1 | 東京都 | 特定非営利活動法人ア クセプト・インターナシ ョナル | 困窮状態にあり孤立し、犯罪に繋がる 恐れのある若者のための緊急居住支 援、および相談・生活支援を含む社会 定着支援事業 | 500 |
| 2 | 大阪府 | 特定非営利活動法人チ ェンジングライフ | 自立援助ホームを起点とする包括的シ ェルター基盤整備事業 | 500 |
| 3 | 愛媛県 | 特定非営利活動法人 Community Life | 生きづらい若者が「学び直し」できる 夜間教室開設事業 | 397 |
| 4 | 福岡県 | 特定非営利活動法人抱 樸 | 十分な社会的スキルを得ないまま「高 校卒業」する若者たちへ社会参加や就 労等の支援を行う事業 | 500 |

■新規採択事業（一般助成） 10件

| No. | 都道府県 | 団体名 | プロジェクト名称 | 令和5年度 助成決定額 (万円) |
|-----|------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1 | 栃木県 | 一般社団法人栃木県若 年者支援機構 | 「世界にひとつだけのサステナブルリ メイク」事業を通して、8050問題 当事者の就労に繋がる出口を作る | 829 |
| 2 | 埼玉県 | 特定非営利活動法人さ いたまユースサポート ネット | ヤングケアラーの子ども・若者を地域 で発見し、支えるためのネットワー クづくり事業 | 992 |
| 3 | 東京都 | 一般社団法人SDGs 市民社会ネットワーク | NPOが「誰一人取り残さないSDG s」の達成に向けた活動を他組織と連 携して実施するための対話とエンパ ワメントを重視した調査研究事業と その結果を活用したNPO研修開発 事業 | 919 |
| 4 | 東京都 | 特定非営利活動法人 POSSE | 女性及びセクシャルマイノリティの職 場におけるジェンダー差別やハラス メント被害に関する相談支援事業 | 849 |

| No. | 都道府県 | 団体名 | プロジェクト名称 | 令和5年度 助成決定額 (万円) |
|-----|------|--------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------|
| 5 | 神奈川県 | 特定非営利活動法人多様な学びプロジェクト | 不登校の子と保護者を支える居場所運営者の為の研修サイトとプログラム開発、及び地域ネットワーク構築事業 | 437 |
| 6 | 神奈川県 | 特定非営利活動法人びーのびーの | 産前産後の子育て家庭を支えるための地域版セーフティネット創出のための活動 | 776 |
| 7 | 愛知県 | 一般社団法人仕事と治療の両立支援ネットーブリッジ | 社会との連携モデルによる仕事と治療の両立支援体制を社会システムへと定着させるための基盤づくり事業 | 968 |
| 8 | 滋賀県 | 社会福祉法人長浜市社会福祉協議会 | 持続可能な地域共生社会を実現するための分野横断的専門人材の育成と相談窓口設置事業 | 418 |
| 9 | 大阪府 | 特定非営利活動法人はんもっく | 訴えの出ない孤立した母子を産後ケアから地域につなぐ子育て支援の活動 | 555 |
| 10 | 岡山県 | 特定非営利活動法人岡山NPOセンター | 困難を抱える子ども・家庭の支援に取り組む支援者が持続的に働くためのメンタルケアを含む働く支援者支援のネットワーク形成活動 | 335 |

■ 2年目の事業（重点助成） 2件

| No. | 都道府県 | 団体名 | プロジェクト名称 | 令和5年度 助成決定額 (万円) |
|-----|------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1 | 北海道 | 特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター | 孤立している若者、困難を抱えている若者に対し一人暮らし体験の場を提供すると共に、その実践を通して、一人暮らしに必要な能力と若者特有の難しさを明らかにするための活動 | 500 |
| 2 | 東京都 | 一般社団法人ヤングケアラー協会 | ヤングケアラーが自分らしく生きられる社会を創る活動 | 500 |

■ 2年目の事業（一般助成） 5件

| No. | 都道府県 | 団体名 | プロジェクト名称 | 令和5年度 助成決定額 (万円) |
|-----|------|------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------|
| 1 | 宮城県 | 特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター | 「属性を問わない緊急一時支援」の全国波及のための調査研究及び実践ガイドの作成、セミナー開催、ネットワーク構築事業 | 961 |
| 2 | 東京都 | 一般社団法人全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会 | 若年性認知症の介護家族会の立ち上げ支援とネットワーク作り活動事業 | 266 |
| 3 | 神奈川県 | 特定非営利活動法人つなぐ | 知的障害・精神障害の方のための意思決定支援ツールの開発 | 310 |
| 4 | 神奈川県 | 特定非営利活動法人子ども支援センターつなぐ | 子どもの性被害への対応に関する実態調査 | 398 |
| 5 | 岡山県 | 社会福祉法人美作市社会福祉協議会 | 生きづらさを抱える高齢者、障害者、ひきこもり等の商福連携による移動販売事業 | 280 |

■ 3年目の事業 5件

| No. | 都道府県 | 団体名 | プロジェクト名称 | 令和5年度 助成決定額 (万円) |
|-----|------|---------------------------|----------------------------------------|------------------------|
| 1 | 東京都 | 特定非営利活動法人あなたのいばしょ | 問題を抱えた時に確実に信頼できる人につながるチャット相談事業 | 417 |
| 2 | 東京都 | 特定非営利活動法人サンカクシャ | 孤立リスクの高い若者を対象とした就労支援付きシェアハウス事業 | 900 |
| 3 | 滋賀県 | 社会福祉法人滋賀県母子福祉のぞみ会 | 孤立する母と子を包摂するための多機能型シェアハウスを拠点とした包括的支援活動 | 690 |
| 4 | 滋賀県 | 認定特定非営利活動法人つどい | 働きづらさを抱えた人のための居場所を地域みんなで創り出す事業 | 580 |
| 5 | 東京都 | 認定特定非営利活動法人シェア=国際保健協力市民の会 | 外国人母子の健康を守る切れ目ない支援体制構築事業 | 900 |

参考資料5 赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン
助成概要

<令和4年度助成決定分>

① 居場所を失った人への緊急活動応援助成

| | 第5回 | 第6回 | 令和4年度 合計 |
|-----------|--------------|--------------|--------------|
| 応募総数（件） | 77 団体 | 113 団体 | 190 団体 |
| 応募総額（円） | 1 億 7,318 万円 | 2 億 6,753 万円 | 4 億 4,071 万円 |
| 助成決定数（件） | 24 団体 | 25 団体 | 49 団体 |
| 助成決定総額（円） | 5,642 万円 | 6,162 万円 | 1 億 1,804 万円 |

② 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成

| | 第3回 | ウクライナ避難民 緊急支援 | 令和4年度 合計 |
|-----------|--------------|------------------|--------------|
| 応募総数（件） | 64 団体 | 5 団体 | 69 団体 |
| 応募総額（円） | 1 億 3,219 万円 | 487 万円 | 1 億 3,706 万円 |
| 助成決定数（件） | 45 団体 | 5 団体 | 50 団体 |
| 助成決定総額（円） | 8,139 万円 | 487 万円 | 8,626 万円 |

③ 重症児等とその家族に対する支援活動応援助成

| | 第1回 |
|-----------|--------------|
| 応募総数（件） | 46 団体 |
| 応募総額（円） | 1 億 6,089 万円 |
| 助成決定数（件） | 23 団体 |
| 助成決定総額（円） | 7,807 万円 |

④ 地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材（つながりワーカー）養成および実践活動助成

| | 第1回 | 第2回 | 令和4年度 合計 |
|-----------|--------|--------|----------|
| 応募総数（件） | 30 団体 | 23 団体 | 53 団体 |
| 応募総額（円） | 929 万円 | 481 万円 | 1,410 万円 |
| 助成決定数（件） | 30 団体 | 23 団体 | 53 団体 |
| 助成決定総額（円） | 929 万円 | 481 万円 | 1,410 万円 |

※上記のほか、区域内での直接助成公募を行った10県共同募金会に対し、それぞれ200万円、計2,000万円を助成原資及び事務経費として提供した。また、同プログラムの「講座・研修コンテンツの開発・制作への助成」として特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンターに対し883万円の助成を行った。

<助成決定の全体概要（キャンペーン開始時（令和2年3月）からの累計）>

| プログラム | 助成回数 | 件数 | | 金額（単位：円） | |
|--------------------------------------------|-----------|--------------|--------------|----------------------|----------------------|
| | | 応募 | 決定 | 応募 | 決定 |
| 臨時休校中の子どもと家族を支えよう緊急支援活動応援助成 | 3 | 808 | 555 | 67,632,024 | 44,670,000 |
| フードバンク活動等応援助成 | 3 | 478 | 304 | 475,317,438 | 248,190,000 |
| 居場所を失った人への緊急活動応援助成 | 6 | 668 | 158 | 1,546,302,817 | 346,662,991 |
| with コロナ 草の根活動応援助成 | 3 | 1,122 | 651 | 112,200,000 | 65,100,000 |
| 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成 | 4 | 207 | 148 | 433,878,516 | 262,310,000 |
| 重症児等とその家族に対する支援活動応援助成 | 1 | 46 | 23 | 160,890,000 | 78,070,000 |
| 地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材（つながりワーカー）養成および実践活動助成 | 2 | 53 | 53 | 14,100,000 | 14,100,000 |
| ※10 県共同募金会への助成原資提供及び「講座・研修コンテンツ開発・制作助成」 | - | - | 11 | - | 28,830,000 |
| I 合計 [中央共募実施分] | 22 | 3,382 | 1,903 | 2,810,320,795 | 1,087,932,991 |
| II 都道府県共同募金会による助成 | - | - | 3,101 | - | 633,737,210 |
| 総計 I + II | - | - | 5,004 | - | 1,721,670,201 |

監査報告書

令和5年5月18日

社会福祉法人 中央共同募金会

会 長 清 家 篤 殿

監 事 金 杉 等

監 事 小 林 和 弘

監 事 大 倉 然

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

- (1) 理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。
- (2) 事業報告に記載されている理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他社会福祉法人の業務の適正を確保するために必要なものとして社会福祉法施行規則（昭和26年厚生省令第28号）第2条の16各号に掲げる体制の整備に関する理事会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部管理体制）について、理事及び職員等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
- (3) 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（社会福祉法施行規則第2条の33各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部管理体制に関する事業報告の記載内容及び理事の職務の執行については、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

会計監査人「公認会計士岡原事務所」の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

以 上